

小中のつながりを意識した指導により英語教育の充実を図りましょう

次期学習指導要領を見据えた英語教育の改善・充実に向け、小学校ではコミュニケーション能力の素地を、中学校ではコミュニケーション能力の基礎を養うために、小中の学びのつながりを意識した指導法や指導体制を取り入れ、英語教育の充実を図りましょう。

小中のつながりを意識した指導①「積極的にコミュニケーションを図る態度の育成」

小学校外国語活動では、コミュニケーション能力の素地として、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成します。小学校で身に付けた力は、中学校で養うコミュニケーション能力の支えとなるものです。



<小学校の先生方に意識してほしい指導の「つながり」！>
小学校におけるコミュニケーションへの積極的な態度の育成は、伝え合う喜びや言葉の役割の大切さへの気付きにもつながります。
こうした意欲や気付きが中学校における英語学習の土台となります。

積極的な態度を育てたいけれど、こんな児童がいたらどうすればいいの？



英語で会話することに慣れていないので、授業が心配だなあ・・・



みんなの前に出ると、英語で話すのが恥ずかしくて、言いたいことが言えないなあ・・・

- 友達や教師との英語でのやりとりの中に褒め言葉“Good!”“OK!”などを入れ、子どもたちのコミュニケーションへの意欲を後押ししましょう。
- 歌（音楽）や体の動き（体育）など、他教科の要素も取り入れて楽しく英語を学ぶ環境や雰囲気を作りましょう。

- 授業の中で、担任が「英語を使おうとするモデル」として、積極的にALTとやりとりをしている姿を児童に見せ、「これならできる」という自信をもたせましょう。
- プリントを渡すときに“Here you are.”と声をかけるなど、児童とのちょっとしたやりとりをコミュニケーションの場面として活用しましょう。

小中のつながりを意識した指導②「学びの系統を意識した指導の充実」

「聞くこと」や「話すこと」の技能については、中学校の先生方が小学校での外国語活動の指導内容を把握することで、学びの系統を意識した指導が可能になります。

<中学校の先生方に意識してほしい指導の「つながり」！>

英語を活用する場面を、小学校の外国語活動で扱っている場面と同じにすることで、指導の連続性が生まれます。これにより子どもたちは、小学校で慣れ親しんだ言語材料を活用しながら、技能を高めることができるようになります。
※共通の場面の例：「道案内をする」「自分の夢を紹介する」など



「学びの系統を意識した指導」に各校で策定したCAN-DOリストを活用して下さい！
※CAN-DOリストとは、中学校で「英語を用いて何ができるようになるか」という観点で作成されている学習到達目標のことです。



<「学びの系統を意識した指導の充実」のための「CAN-DOリスト」活用のポイント>

- 小中の教員同士及び中学校の教科部会で学習到達目標を共有しましょう。校種や学年の枠を超えて、教職員間で子どもの学びをつないでいこうという意識をもつことが大切です。
- 学習到達目標は生徒とも共有しましょう。生徒に学習のゴール（英語を用いて何ができるようになるか）を示すことで、今の学びがどのような力に結びつくのかが分かるようになり、学ぶ意欲の向上につながります。